

令和5年11月秋田市議会定例会一般質問者順序

自 民 党 工 藤 知 彦

秋 水 会 萩 原 貴 幸

フロンティア秋田 佐 藤 哲 治

公 明 党 佐 藤 佳 人

そうせいと維新 藤 井 翼

共 産 党 奈 良 順 子

自 民 党 熊 谷 重 隆

秋 水 会 伊 藤 一 榮

フロンティア秋田 船 木 純

1 新スタジアムの整備について

- (1) 佐竹知事とのトップ会談は行われたのか、また、行われたとすれば、建設費や運営体制などの具体的な内容についてどのような進捗があったのか、さらに、県との調整は遺漏なく行われているのか
- (2) 新スタジアムの早期完成に向け、ブラウブリッツ秋田、県及び市で協議を行っているとのことであるが、現時点での見通しはどうか
- (3) 事業主体はブラウブリッツ秋田が中心となって設立するスタジアム整備会社とのことであるが、整備会社が事業主体となることについて課題と考えられる点はないか

2 財政について

- (1) 令和6年度予算は、令和5年度予算と比較して、歳入一般財源総額を約10億円の減と見込んでいるが、物価高や人件費の上昇等が続く中で、市民生活に必要なサービス水準をどのように確保するのか
- (2) 人口30万人を下回ったことにより、歳入においては、令和8年度以降には事業所税の課税要件の喪失による減収が見込まれるが、新規財源の確保に向けてどのような取組を行うのか
- (3) 今年8月の国土交通省の貸切バスの公示運賃額の見直しにより、運賃が改正されたが、各種事業において利用する際の予算確保は十分できるのか

3 熊等による被害防止について

- (1) 目撃情報の収集と情報共有について
 - ア 目撃しても通報につながっていないケースがあることから、各市民サービスセンターに気軽に通報できるようにするなど方法を簡素化すべきではないか、また、市民から集まった情報を公表することで被害防止につなげてはどうか
 - イ 来年度以降に活用するため、全市的な「熊の出没マップ」を作成

してはどうか、また、マップは地域ごとに作成し、本市ホームページ等で公開するほか、チラシ等で広く周知を図ってはどうか

(2) 不在地主への啓発について

ア 餌となる柿の木等の処理について、地元の町内会や自治会と共同で不在地主に呼びかける考えはないか

イ 建物の管理及び敷地内の草刈り等を適正に実施するよう、本市が積極的に働きかけを行うべきではないか

(3) 緩衝帯等整備事業の今年度の実施状況及び来年度の計画はどうか

4 林業について

(1) 森林経営管理制度に基づく森林所有者への意向調査を実施しているが、その内容及び進捗状況はどうか

(2) 市有林における皆伐再造林において、昨年度の実績、今年度の進捗状況及び来年度以降の計画はどうか

(3) 秋田市森林吸収 J-VER クレジットの発行及び売却実績はどうか、また、今後のクレジットの取組をどのように考えているのか

5 特殊詐欺による被害の防止について

(1) 消費生活出前講座は、あらゆる機会を捉えて積極的に開催すべきではないか

(2) 特殊詐欺の手口は日々多様化・巧妙化していることから、本市ホームページに掲載中の特殊詐欺等の相談事例は、常に新しい内容となるよう工夫が必要ではないか、また、様々な媒体を通じて市民へ広く周知すべきではないか

6 秋田市消防職員採用試験（職務経験者）について

(1) 職務経験者を対象とした採用試験を今年度実施したが、受験案内は広く周知できたのか、また、来年度以降の実施は未定とのことであるが、毎年度実施すべきではないか

7 地域の諸課題について

- (1) 雄和地域の3保育所の統合に当たっては、各施設が老朽化していることから施設を新設し、子育て環境を整備すべきと思うがどうか
- (2) 秋田市雄和ふるさと温泉「ユアシス」の大規模改修における概算事業費は幾らか、また、厳しい財政状況下において工事は確実に行われるのか、さらに、今後のスケジュールの具体はどうか
- (3) 市長公約として、雄和地域の活性化の促進を掲げているが、ゆうわ芸農の里づくり事業の今後の事業展開はどうか、また、雄和地域の持続的な発展のため、どのように取り組んでいくのか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 本市がこれまで取り組んできた人口減少対策に関する課題について、どう分析しているのか、また、人口減少を食い止めるための今後の取組に対する市長の考えと具体的対策はどうか
- (2) 新スタジアム及び新県立体育館の整備については、スポーツを秋田の活力と発展のシンボルとしている秋田県とはずむ！スポーツ都市を掲げている本市が共通認識を持って連携して取り組んでいくべきと考えるが、現状の課題と課題解決に向けた今後の取組に係る市長の考えはどうか
- (3) 本市の水道水から欧州連合の定める規制値を大きく上回るネオニコチノイド系農薬が検出されたとの研究調査結果に対し、上下水道局は調査しない方針を示しているものの、移住・定住の促進及び子育て環境づくりの観点から定期的な調査は必要と考えるが、市長の見解はどうか

2 令和6年度予算編成等について

- (1) 令和6年度予算編成に当たり、歳入が減少する一方で義務的経費と経常経費が増加する状況において、市民生活に必要なサービス水準を保ちつつ、限られた財源を有効活用するため、事業の取捨選択や抜本的な見直しを徹底して最少の経費で最大の効果を得られるように努めるとしているが、具体的に何をどのように取り組んでいくのか
- (2) 自ら必要な財源を確保し、市民サービスの維持・向上につなげる観点から、新規財源の開拓について積極的に取り組むとしているが、令和6年度における特徴的な点は何か
- (3) 行政財産として利用計画のない公有財産については、秋田市未利用公有財産利活用方針に基づき、売却や利活用等を積極的に推進するとしているが、現在の検討状況はどうか

3 子育て支援について

- (1) 分け隔てなく子育てを支援する観点から、子ども福祉医療制度について、所得制限を撤廃するなど、さらなる拡充を図るべきと考えるかどうか
- (2) 在宅子育てサポート事業について
 - ア 同事業の対象児童数の占める割合は、未就学児童全体の何割程度か、また、その申請率と各プランの利用率はどうか
 - イ 親の就労や保育施設等の利用の有無にかかわらず子育てを支援する観点から、同事業について、クーポン券の交付対象世帯の見直しを行ってはどうか
 - ウ デジタル技術を活用し、電子クーポンの導入やサービスプランの見直しを行うなど、利便性の向上を図ってはどうか

4 新エネルギー産業の推進について

- (1) 水素の利活用と製造拠点の整備について、本市として、今後どのように取組を進めていくのか
- (2) 新エネルギー関連産業の誘致や地元企業の関連産業への新規参入促進について、今後どのように取り組んでいくのか

5 防災・減災について

- (1) 本市において、水害による被害軽減を目的に洪水や浸水被害の多発している地域を選定し、国土交通省のワンコイン浸水センサ実証実験に参加するなど、浸水センサを導入してはどうか
- (2) マイ・タイムラインの普及について、これまでどのように取り組んできたのか、また、令和5年7月の豪雨災害を踏まえ、現状の課題と今後の取組について、どのように考えているのか
- (3) 児童生徒の居住地での防災・減災に関するさらなる意識向上につながるよう、市立小・中学校において、マイ・タイムラインづくりや防災マップづくりを取り入れてはどうか
- (4) 地域住民の安全・安心確保と防災力強化を図るため、災害時の地域

サポーターとなることなどを条件に防災士の資格取得にかかる費用の一部を補助してはどうか

6 中心市街地活性化について

(1) 中心市街地の活性化には、ユーチューブなどの秋田市公式SNSを活用した視覚的PRが有効と考えることから、中心市街地の魅力を発信する動画を制作し、定期的に配信してはどうか

(2) 定期的にアンケート調査を実施することにより、データを蓄積し、評価・改善を繰り返し行うことで活性化の実現に向けた一助になると考えるがどうか

7 熊対策について

(1) 本市における熊の目撃情報の件数、人的被害及び農作物被害の状況はどうか、また、農作物の被害額は幾ら程度と試算しているのか

(2) 全国各地で熊駆除に対する抗議の声が上がっているが、本市の状況はどうか、また、抗議の声に対して、どのように対応するよう指示しているのか

(3) 来年度以降の熊対策として、何か考えはあるか

1 市長の政治姿勢について

- (1) これまでの市政運営について、市長自身の評価はどうか、また、今後の市政運営について、どのように取り組んでいくのか
- (2) 岩見三内地区などの郊外部においては、それぞれの地区の特性に応じた取組を行ってきたと思うが、そのことに対する市長自身の評価はどうか、また、今後、どのように取り組んでいくのか
- (3) 市中心部の住民と郊外部の住民に対する市長の思いに違いはないのか

2 地域医療について

- (1) 岩見三内地区の診療所閉院後、当該地区の住民が、非常に不安な日々を送っていることから、一日も早く再開すべきではないか

3 秋田市河辺岩見温泉交流センターについて

- (1) オープン当初の1日当たりの想定利用者数が150人であるのに対し、現在の利用者数は、多い日で200人を超えており、浴室や脱衣所などが手狭となっているとの声があることから、利用者に満足してもらえる施設となるよう増築すべきではないか
- (2) 物価高騰の影響により、市民が苦しい生活を強いられていることから、地域の憩いの場である同センターの使用料の見直しは、先送りすべきではないか

4 買物弱者への支援について

- (1) 自動車運転免許証の自主返納や公共交通の衰退などにより、買物が困難となっている市民への支援の一環として、移動販売を行っている事業者へ燃料費等の補助を行ってはどうか

5 新たな除排雪の取組について

- (1) 本取組に対する市民の期待が高まっていると思うが、安全で快適な道路環境の確保に向けた市長の決意はどうか
- (2) 本取組により、市民からの苦情や要望が減少すると考えられることから、道路除排雪コールセンターによる対応を取りやめ、市職員が直接対応すべきではないか

6 秋田市マイタウン・バスについて

- (1) 南部線については、目的地に到着するまでに複数回の乗り継ぎを要することが多く、非常に不便であることから、路線の再編など、利便性の向上に向けた見直しが必要ではないか

7 子育て環境の充実について

- (1) 学校給食費を無償化すべきではないか
- (2) 様々な事情により、欠席が続いている児童生徒に対し、現在、どのように対応しているのか、また、そのような児童生徒の減少に向けた取組を強化する必要があると思うが、今後の取組をどのように考えているのか
- (3) 市立小・中・高等学校等におけるいじめの実態はどうか、また、いじめの解消に向けてどのような対策を講じているのか

8 未登記の市道について

- (1) 未登記の市道は、どのくらいあるのか、また、全ての登記を完了するには、どの程度の期間と費用がかかると試算しているのか

9 中心市街地の活性化について

- (1) 活性化に係る事業について、これまでに支出した総額は幾らくらいか
- (2) これまで実施した取組は、支出した経費に見合った成果があったと捉えているのか

10 外旭川地区のまちづくり事業等について

- (1) 人口減少下において、同事業を実施することによる本市のメリットは何か
- (2) 同事業が、市内の商業地や商店街等に対して与える影響をどのように考えているのか
- (3) 新スタジアム整備について
 - ア 民設民営方式で整備するのか、また、公費負担はあるのか
 - イ 民設民営方式で整備する場合、本市は、どのような立場で整備及び運営に関わっていくこととなるのか
- (4) 泉外旭川駅は、工事着手前に想定した機能及び役割を十分に果たしていると考えているのか

11 油谷これくしょんについて

- (1) 油谷これくしょんを活用した事業の費用対効果について、どのように考えているのか

12 7月の豪雨災害への対応等について

- (1) 災害見舞金の給付に係る進捗はどうか
- (2) 住宅リフォーム支援事業補助金の交付状況及び被災住宅応急修理事業における修理費用の支払い状況はどうか、また、住宅が使用できなくなった方に対する市営住宅及び賃貸型応急住宅の申請件数と提供状況はどうか
- (3) 冠水した農地及び農作物の被害状況はどうか、また、市として、農地及び農作物の被害に対し、何らかの支援が必要と考えるがどうか
- (4) 被災した市道広域河辺北野田神内線の復旧状況はどうか、また、復旧するまでにどの程度の期間がかかる見込みなのか
- (5) 岩見川の治水対策及び新川橋の復旧を早急に行うよう県に働きかけるべきではないか
- (6) テレビを見ない、インターネットが利用できないなどの理由により、避難情報を把握していない市民が多かったことから、市民一人一人に

避難情報を伝達するための手法が必要であると思うがどうか

(7) 緊急時における市民への情報発信について、迅速かつ的確に情報を発信できる体制の在り方や市民により伝わりやすい手法等に係る検討状況はどうか

(8) 緊急時において、市民から寄せられる有益な情報を集約し、迅速かつ的確な対応に生かせる体制を構築すべきと考えるがどうか

(9) ボランティアの支援が受けられることを把握していない市民が多かったことから、災害時のボランティア要請に係る情報発信を強化すべきと考えるがどうか

13 市職員等の処遇改善について

(1) 会計年度任用職員なども含めた全ての市職員の給与について、近年の物価高騰に見合う水準の引上げを行うべきではないか

(2) 市職員の特殊勤務手当及び消防団員の出動報酬については、求められる業務や職務の内容に見合った金額となっていないことから、引上げが必要と考えるがどうか

(3) 目撃が相次ぐ熊への対応など、著しく危険な業務や強度の高い業務であるにもかかわらず、特殊勤務手当の支給対象となっていない業務があることから、支給対象業務を拡充すべきではないか

14 新型コロナウイルスワクチン接種による副反応について

(1) 厚生労働省によると、接種開始後から令和5年7月30日までの期間において、全国で副反応の疑いによる死亡例が2,121件報告されているとのことであるが、本市において、ワクチン接種に起因する疑いのある死亡及び重大な副反応に関する報告や相談はあるのか

1 災害対応について

(1) 7月の水害対応等について

ア 罹災証明書の交付に係る家屋被害調査（一次調査）と被害認定調査（二次調査）の判定基準はそれぞれどうなっているのか、また、再調査を申し入れた場合の対応はどうか

イ 災害救助法に基づく秋田県賃貸型応急住宅制度は、入居条件のハードルが高い上に提出書類も多く活用しづらいとの声があることから、県に対して早急に条件の緩和及び提出書類の簡素化を実施するよう伝えるべきと思うがどうか

ウ 暖房機器のない世帯へのストーブの貸出状況はどうか、また、今後ストーブの台数は十分に確保できるのか

エ 市営住宅に避難した市民も多くいるが、石油暖房機の使用についてはFF式のものしか認めないとのことであり、避難した方々の暖房機器の設置状況はどうなっているのか

オ 市営住宅に避難した方の入居期間を、住居の修繕が終了するまで延長するなど柔軟に対応する考えはないか

(2) 今後の災害対応について

ア 災害時の相談窓口や各種手続の受付窓口を一本化して、被災者の利便性の向上を図るべきと思うがどうか

2 高齢者の見守り体制と認知症の方への対応について

(1) 高齢者のみの世帯や単身世帯における在宅時の見守り体制はどのようになっているのか

(2) 認知症の方の徘徊防止や在宅時の火の取扱いに関する本市の対応の現状について、どのように認識しているのか、また、今後の対応をどのように考えているのか

(3) 高齢者の徘徊に関する情報提供や報告はどの程度あるのか、また、報告等への対応はどうなっているのか

3 新県立体育館について

- (1) 県では新県立体育館の専用駐車場を設け有料化するとしているが、周辺には市の施設の無料駐車場があることから、同体育館の利用者が無料駐車場を利用することにより、市の施設の利用者に影響を与えるおそれはないのか、また、その対策はどうか

4 卸売市場の整備等について

- (1) 新スタジアム整備をめぐり候補地や着工時期等が二転三転している中、卸売市場の整備に当たっては、構造変更や工事を同時並行させるなどの安易な選択はせず、本市のまちづくりに寄与する明確なビジョンを描いた上で、両整備を慎重に進めるべきと考えるが、どのように認識しているのか
- (2) 新たな卸売市場の規模は縮小するが、市場内事業者の負担は増えることから、余剰地の活用にあたっては、市場の運営に充てられる歳入を見だし、事業者負担を軽減できるような活用策を検討すべきと思うがどうか

5 買物（交通）弱者について

- (1) （仮称）エリアタクシーや買物タクシーの地域への導入に際し、高齢化率の高い地域を優先する考えはないか

6 除排雪について

(1) 新たな除排雪の取組について

ア 稼働基準10センチメートルを変更せず、雪が固くなる前に除雪をするとのことであるが、一斉除雪後さらに10センチメートルの降雪が確認された場合は、その都度繰り返し一斉除雪を実施していくとの認識でよいか、また、降雪の状況を誰がどのように確認するのか
イ 今冬の総括をどのように行う予定なのか

(2) コールセンターについて

ア 自動音声システムの内容の具体はどのようなものか、また、オペレーターとの直接通話にたどり着くまでどのくらいの段階を経なければならぬのか

イ オペレーターとの直接通話を選択する市民が増えると回線が混雑して通話がつながらず、結局は今と同じような状況になるのではないか

(3) 昨冬実施したLINEを活用したプッシュ型の情報提供の評価はどうか、また、新たな除排雪の取組に呼応した今後の活用をどう考えているのか

7 小・中学校におけるいじめ・不登校に関するタブレット端末の活用について

(1) 児童生徒自らが、いじめの報告や不登校に関する悩みの相談をするためのタブレット端末の活用に関する検討状況はどうなっているのか

8 仁井田浄水場の送水ポンプ停止に伴う断水等について

(1) ポンプ室内における配管からの突然の漏水は、送水ポンプの老朽化が原因のようであるが、点検の在り方や修繕に対する考え方など、今後どのように対応していくのか

(2) 断水の報道が遅く市民が飲料水の確保などに奔走したが、周知の在り方に対する本市の認識はどうか、また、今後の周知方法について、どのように考えているのか

(3) このたびの断水に伴う一連の対応は、本市の公共施設における設備の修繕や改修、地震などの不測の事態における市民への情報提供・周知の仕方に一石を投じたと思うが、今後、どのように対応していくのか

1 外旭川地区まちづくりについて

- (1) 秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想から、これまでにかなりの時間が経過したが、市長は、地元住民の思いに対し、真摯に向き合ってきたと考えているのか
- (2) 市長は、事業パートナーであるイオンタウン株式会社と同地区まちづくりの実現に向け、どのような覚悟を持って取り組むのか
- (3) 事業スケジュールを短縮する可能性はあるのか
- (4) 泉外旭川駅から東西に延びる既存の自転車歩行者専用道路を新たな公共空間として整備してはどうか

2 新スタジアム整備について

- (1) ブラウブリッツ秋田が、今後もJ1クラブライセンスを取得する上で、新スタジアムの整備が必要となることに鑑み、スピード感を持って整備に取り組むべきではないか
- (2) 県と市の連携や協議内容などについて、市民に具体的に説明すべきと考えるがどうか
- (3) 事業スキームは、官民連携による事業手法としているが、整備手法について、民設民営方式だけでなく、公設民営方式や公設公営方式も選択肢に入れた上で検討していくのか

3 中心市街地のにぎわい創出について

- (1) オフィスビルの空きテナントを活用して企業誘致を進めていく考えはないか
- (2) 本市が、誘致企業と地元企業の連携や新規の共同プロジェクトなどをマッチングすることにより、他の事業者にも波及効果が期待できることから、積極的に推進する考えはないか

4 若者の県内就職について

- (1) 企業誘致や就職支援において、若者を対象とした意識調査を行うなど、当事者の意見を取り入れていく仕組みを構築してはどうか
- (2) 若者が転出する前からAターンについてよく理解してもらうため、定期的に情報提供を行い、転出した後も本市とのつながりを持ち続けられる仕組みを構築してはどうか
- (3) 誘致企業と共に、教育とビジネスの交流を促進し、若者の地元定着につなげる取組を行ってはどうか
- (4) 特別支援学校を卒業した若者が、地元企業の正社員として就職できるよう、本市として積極的に事業者に対する働きかけや支援を行うべきと考えるがどうか

5 公共交通の利便性の向上について

- (1) バスの運転士を育成するための支援を強化すべきと考えるがどうか
- (2) 交通局を復活するなど、本市もバス事業者と連携してバス路線を維持すべきと考えるがどうか
- (3) 新規参入を促すため、参入事業者に対して補助金を交付するなどの支援を行う考えはないか
- (4) バス事業者と共に、キャンペーンを開催するなど、利用促進に向けた支援を行ってはどうか
- (5) バス停に待合室や屋根、風よけを整備するための支援を行うべきと考えるがどうか

6 「「あそぶ」を本気で考える」について

- (1) アウトレットモールやコストコ、イケアなど、市民の日常会話から聞かれる商業施設等の誘致を行う考えはないか
- (2) 若者のデートから子育て世代までをターゲットとしたテーマパークの整備や誘致などを検討してはどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) このたびの大雨災害を教訓とした災害対策を講じ、災害に強い秋田市、被災者に優しい秋田市として大きくアピールしていくべきではないか
- (2) 職員の適正な職場環境づくりのために、サービス残業やハラスメントはなくすべきと考えるがどうか

2 大雨災害対策と被災者支援について

- (1) これまで床上浸水以上の被害を対象としていた災害見舞金を、床下浸水世帯にも給付したが、床上浸水世帯へのさらなる見舞金の給付を考へてはどうか、また、床上浸水の被害を受けた世帯にも、もっと寄り添った対応をすべきではないか
- (2) 被災した住宅で冬を越すことが難しい被災者を支援すべきではないか、また、市営住宅を災害公営住宅のように長期間提供する考へはないか
- (3) 市民の命と暮らしを守るため、災害時等における情報を速やかに発信できるよう、各市民サービスセンターに防災無線を設置してはどうか
- (4) 追分駅東地区など床上浸水の被害が多かった地区においては、水路の拡幅や増設などの水害対策が必要ではないか
- (5) 大雨のたびに新城川の氾濫による被害が出ている上新城地区や下新城岩城地区の治水対策が進められているが、早期完成に向けて、国や県に強く要望すべきではないか

3 開発より優先すべき災害に強いまちづくりについて

- (1) 水田は、その保水機能をもって水害防止に貢献しているが、農地を埋め立てることは、防災対策に矛盾するのではないか
- (2) 水田を減らしていくまちづくりは、本市の「ゼロカーボンシティ宣

言」、国の「みどりの食料システム戦略」、2015年から始まった「国際土壌の10年」に逆行するのではないか

(3) 外旭川地区まちづくりは、防災拠点として、また、気候変動対策として十分な機能を備えていると考えているのか

4 子育て支援の充実について

(1) 国民健康保険税における子どもの均等割課税に対する負担軽減について

ア 担税力のない子どもにまで課税するため、子どもが増えるほどに家計への負担が増すことから、子どもの均等割を子育て世帯に負担させるべきではないと考えるがどうか

イ 国が禁止していない基金や繰越金を活用した負担軽減を本市でも活用してはどうか

ウ 負担軽減について、ふるさと納税寄附金の使い道メニューの「市長が選ぶ取組のために」を活用する考えはないか

(2) 子どもの医療費について、本市も県内の他市町村のように、高校卒業まで完全無料とすべきではないか

(3) 小・中学校の給食費について、無償または一部負担軽減できるように取り組むべきではないか

5 学校教育の充実について

(1) 学級担任の「受け持ち授業時数」の負担軽減について

ア 小学校4年生以上を受け持つ学級担任における週当たりの空き時間数の現状はどうなっているのか

イ 小学校における教科担任制をさらに進めていくべきではないか

(2) 本市における教員の休憩時間の取得実態を把握するべきではないか

(3) 本市独自の基礎学力調査を見直すとのことであったが、その進捗状況はどうか

(4) 行き届いた教育実現のための教員の長時間過密労働の解消について

ア もはや限界という教員の声に応え、教員定数の抜本的増員を本市

として国に求めるべきではないか

イ 「定額働かせ放題」になっている公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法、いわゆる「給特法」の改正を、本市として国に要望すべきではないか

6 困窮している市民への支援について

(1) 困窮のため生活保護の申請をしたにもかかわらず、受給要件のハードルが高く、受給できない状況にある方に対する緊急避難的な支援が必要ではないか

(2) 生活保護の障害者加算認定誤りによる保護費の返還請求について

ア 今回の本市における障害者加算認定誤りの原因は何か、また、その責任の所在はどこにあるのか

イ 全く落ち度のない受給者に対して返還請求をすることは、受給者に寄り添った適切な対応といえるのか

7 自衛隊への個人情報の提供について

(1) 名簿等の提供については、提供してほしくないとの意思表示を行った方は除外するという取扱いをするなど、個人情報保護の点にも配慮すべきではないか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 少子高齢化や人口減少がさらに進み、今後、歳入の根幹をなす市税の減収が見込まれる中、持続可能な行政サービスの実現に向け、コスト意識を持ち「自治経営」の視点で行財政運営を行っていくべきと考えるがどうか
- (2) 河辺地域は、本市の地域の中で最も人口減少率が高く、今後も大幅な人口減少が避けられない地域となっているが、同地域について市長はどのようなまちづくりを描いているのか

2 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) モデル地区一帯の開発制限を緩和するため、地域未来投資促進法を活用するとのことであるが、県・市が共同で地域未来基本計画を作成する上で、県との意思疎通は十分に図られているか
- (2) 地域未来基本計画の中で、卸売市場や新スタジアムは明記されるのか
- (3) 新スタジアム整備について
 - ア 候補地や施設の規模が基本構想から大きく変更されているが、その理由は何か
 - イ ブラウブリッツ秋田が中心となって設立するスタジアム整備会社が事業主体になるとのことであるが、想定事業費約90億円のうち本市が負担する金額は幾らになると見込んでいるのか
 - ウ 市は、Jリーグへ令和8年度の工事着手を目指す方針を伝えているものの、卸売市場の再整備をローリング方式で行った場合には、令和8年度の工事着手に間に合わないと思うがどうか
- (4) イオングループが事業主体となり、従来型のショッピングセンターと異なる体験・参加型の施設を整備とのことであるが、御所野地区にあるイオンモール秋田との違いはあるのか

3 中心市街地の活性化について

- (1) 西武秋田店は、維持される方向性が正式に発表されておらず、今後も存続してもらうためにも、本市として存続を求める意向を経営側に訴え続けていく必要があると考えるがどうか
- (2) エリアなかいちやあきた芸術劇場ミルハスで創出されたにぎわいを広小路及び仲小路商店街周辺にも波及させるため、どのような施策を展開していくのか、また、同地区でのイベント開催時などは、木内百貨店の駐車場を利用できるよう所有者に働きかける考えはないか
- (3) 本市の顔である千秋公園において、さくらファンドを活用し、春と秋に咲くシキザクラを植樹してはどうか、また、トライアル・サウンディングを実施するなど、イベントに積極的に利用してもらい、官民連携で利活用を図ってはどうか

4 災害対策について

- (1) このたびの大雨災害について
 - ア 検証委員会を設置し、検証内容を地域防災計画に反映させるとしているが、検証において特に力を入れて進めたい分野は何か
 - イ 氾濫した河川のほとんどが県管理であるが、改修に向けて県との連携は行っているのか、また、県と共に国に対して早急な財政措置を要望してはどうか
 - ウ 内水氾濫があった地区の雨水幹線を整備するとしているが、具体的な整備方針はどうか
 - エ 浸水被害があった秋田駅周辺地区の貯留・浸透機能を向上させることで、雨水対策の一環として「川に流さないまちづくり」を目指す必要があると考えるがどうか
 - オ 被災した医療機関や福祉施設、中小規模事業者の経営は厳しい状況にあることから、市独自のさらなる支援策が必要と考えるがどうか
- (2) 指定避難所になっている小・中学校への非常用発電機や災害用トイレの設置状況はどうか

(3) 災害情報の発信にメールやスマートフォンのアプリを活用しているが、高齢者世帯への情報伝達に課題があることから、情報格差の解消に向けてどのように取り組んでいくのか

(4) 本市として被災者支援を行う災害ボランティアの育成に取り組む必要があると考えるがどうか

5 農業振興について

(1) 第6次秋田市農林水産業・農村振興基本計画は、先端技術を活用したスマート農業の活用などを掲げており、大規模農業者向けだと思うが、中山間地域の小規模農業者に対してはどのような支援策を実施していくのか

(2) 日本型直接支払制度を活用するための組織・団体は、高齢化によりその維持が困難となってきたが、本市として現状をどう認識しているのか、また、組織・団体の維持のため、どのような対策を講じているのか、さらに、同制度をまだ利用していない農業者等に対して、制度の普及啓発に努めるべきではないか

(3) 熊による被害が大きい果樹農家に対して支援策を実施すべきではないか

6 熊対策について

(1) 熊による被害防止のため、今後、どのような対策を講じていくのか

(2) 本市における猟友会の組織数はどうか、また、組織の維持や狩猟者の担い手育成のため、市として補助を行う考えはないか

7 地域の諸課題について

(1) 若者の移住定住を促進するため、地域特性に見合った条件の下、市街化調整区域への住宅の建築を柔軟に認めるべきではないか

(2) 過疎地域の鳥獣被害を減少させるため、有害鳥獣の捕獲や農地への侵入防止等の対策を講じるべきではないか

(3) 市内で捕獲した熊などの鳥獣を、株式会社秋田県食肉流通公社で解

体・加工するよう働きかけてはどうか

- (4) 国道13号河辺拡幅は、地域における市民生活の向上に資する事業であるが、現在の進捗状況はどうか、また、早期整備に向けて、国及び県に対してさらに要望していくべきではないか

1 豪雨災害による被害状況及び対策等について

(1) 令和5年7月及び9月に発生した豪雨による被害について、現時点における被害全体の状況はどうか、また、災害復旧の計画及び進捗状況はどうなっているのか

(2) 被災した市民が相談しやすく、かつ市民に支援制度を分かりやすく伝えるための総合相談窓口を設置するべきではなかったか、また、今回の経験を踏まえ、きめ細かな情報提供の在り方を検討するべきではないか

(3) 被災者等への各支援制度における支援状況と利用状況はどうか

(4) 令和5年7月豪雨災害対応検証委員会の5分科会及び各部会における、短期・中期・長期の検討項目の内容及びその検討状況はどうか

(5) 内水氾濫対策について

ア 内水浸水想定区域図の作成状況と今後の作成予定はどうか、また、同図の住民への周知徹底をどのように進めていくのか

イ 内水氾濫を考慮した水害ハザードマップの見直しが必要ではないか

ウ 貯水機能を持つ新たな下水道管の整備をどのように進めていくのか、また、今後予定される整備内容の具体はどうか

エ このたび浸水被害を受けた、中通、南通及び檜山地区は合流式下水道管であるが、ほかに合流式となっている地区はどのくらいあるのか、また、合流式は浸水被害後に路肩に汚泥が残される場合があるなど、環境衛生上好ましくないことから、分流式に敷設替えすることはできないのか

オ 排水ポンプ車の増車を考えるべきではないか

(6) 復興支援チーム及び地域支え合いセンターの業務について

ア 復興支援チームは、被災者の支援ニーズを踏まえ、今後どのように支援につなげていくのか

イ 地域支え合いセンターの業務軽減を図るための方策を早急に考え

るべきではないか

(7) 危機管理、市民生活、福祉など市内の各部門の連携に加え、各地区のコミュニティー団体と連携することにより、自然災害に対する体制強化を図るべきではないか

(8) 被災者支援として、市税、保険料などの減免や徴収猶予等を行っているが、本市財政への影響についてどのように認識しているのか

(9) 職員労働組合が実施した課所室別要求人員の調査結果についてどのように捉えているのか、また、兼務発令の在り方や時間外勤務の縮減策についてどう考えているのか

2 仁井田浄水場の送水ポンプ停止による断水について

(1) 送水ポンプの停止について、再発防止に向けどのように取り組んでいくのか

(2) このたびの断水発生時における市民への周知方法とタイミングは適切であったと考えているのか

3 鳥獣被害防止対策について

(1) 本市における今年の熊による被害状況はどうか、また、熊の目撃件数及び通報があった際の対応はどのようになっているのか、さらに、熊の捕獲数はどうか

(2) 米ぬかの投棄が要因と思われる熊の被害事例があったが、米ぬかや農作物等の投棄への対策は講じられているのか

(3) 対象鳥獣の捕獲業務に当たる秋田市鳥獣被害対策実施隊の隊員数は十分なのか、また、今後の隊員確保に当たっての課題は何か

(4) 秋田市鳥獣被害防止計画は、計画期間が令和3年度から令和5年度までとなっているが、計画の更新に当たって、今年の熊による被害状況などを反映させる考えはあるのか

(5) タヌキ、アナグマ、ハクビシン、イノシシ等、熊以外の野生動物の農作物への被害対策はどうか

4 農業施策について

- (1) 農業生産資材の高騰や大雨、猛暑に伴う農作物の作柄不良等に対する支援等に本市としてどのように取り組んでいくのか
- (2) 農業者の経営安定化と所得増加を図るための施策の取組状況はどうか
- (3) 「あきたこまちR」への全面切替えについての本市の認識はどうか、また、消費者への周知や生産者への情報提供などについて、今後、どのように取り組んでいくのか

5 教育行政について

- (1) 不登校児童生徒が再登校するためにどのような指導や支援を行っているのか、また、いじめ防止の対策はどのように進められているのか
- (2) 教育職員の在校等時間の上限方針について、本市でいまだに条例や規則等へ反映されていない理由は何か、また、反映に向けた課題は何か

6 本市の人口減少対策及び財政について

- (1) このたび政府が閣議決定した総合経済対策の柱の一つである「人口減少を乗り越える社会変革」について、本市においてはどのように捉えているのか
- (2) 令和8年度に事業所税の課税要件喪失が見込まれているが、その影響と減収分に対する国からの支援はどうか

7 外旭川地区まちづくりについて

- (1) 新スタジアムの候補地の変更について、県、ブラウブリッツ秋田及び事業パートナーそれぞれの見解はどうであったのか、また、候補地を変更した経緯及び変更に至った決定的な理由は何か
- (2) 新スタジアムの候補地とされている卸売市場敷地の活用については、市場内事業者の市場使用料の負担が過度にならないような形態とすべきではないか

- (3) 地域未来投資促進法の活用について、県と市の協議はどこまで進んでいるのか、また、今後の見通し及び課題はどうか
- (4) 第7次秋田市総合都市計画や秋田市立地適正化計画など関連する個別計画に、同地区のまちづくりを位置づける必要性をどのように捉えているのか
- (5) 令和6年度にイオンタウン株式会社と締結することとしている協定について、これまでの協定から変更が想定される内容とその理由は何か

8 地域の諸課題について

- (1) 来年に創立150周年を迎える四ツ小屋小学校の体育館の屋根塗装を早期に実施し、児童の願いと住民要望に応えるべきではないか
- (2) 四ツ小屋駅近くの小阿地字下野地内の農道舗装を早期に実施するべきではないか
- (3) このたび市から提案のあった牛島車両基地跨線橋の代替案について、これまでの経緯と今後の整備計画はどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 卸売市場の再整備によって生じる余剰地を新スタジアムの建設候補地としているが、地盤の強度についてどのような見解を持っているのか
- (2) 金沢市民サッカー場と同程度の仕様のスタジアムを整備する場合、卸売市場余剰地には収まりきらない等、物理的に問題があると考えられるかどうか
- (3) 本市の人口が30万人を下回ることで、今後、事業所税の課税要件が喪失するが、その税収の減少分についてどのように補てんするのか

2 令和5年7月の大雨災害を教訓とした今後の対応について

- (1) 氾濫危険水位に達してから高齢者等避難や避難指示を発令するまでのタイミングが河川ごとに異なっていた理由は何か
- (2) 避難指示を適切なタイミングで発令する目安の一つとして、ダムが緊急放流した際の河川の増水量をあらかじめ把握しておくべきではないか
- (3) Lアラート運用時の地区名の入力方法を改善するため、秋田県情報集約配信システムの改修を県に働きかけるべきと考えるかどうか
- (4) 飯島新町、飯島薬師田、四ツ谷市営住宅周辺等、降雨時に冠水が発生している北部の地区について、今後の水害対策をどのように行っていくのか
- (5) 指定避難所となっているコミュニティセンターには、テレビやラジオ等、災害時に情報を入手できる設備を用意しておくべきと考えるかどうか

3 仁井田浄水場について

- (1) 送水ポンプ停止事故について
 - ア 水圧調整弁の配管の継ぎ手が抜け出したと想定されているが、原

因の調査状況は、現在、どのようになっているのか

イ 同様の事故を最小限にするため、水圧変動のモニタリングを強化し、漏水を検知した際にアラームや一斉メールで職員に異常を知らせるシステムを導入すべきと考えるがどうか

(2) 仁井田浄水場更新基本計画等について

ア 水道水に含まれるネオニコチノイド系農薬の濃度について、サンプリング調査を実施し、本市として状況を把握すべきと考えるがどうか

イ 同計画において、粉末活性炭を使用した急速ろ過方式を採用することとしているが、全有機炭素、かび臭物質、総トリハロメタン及びネオニコチノイド系農薬の除去について、どの程度の効果を期待しているのか

4 教育について

(1) 校則は、生徒や保護者が共に考え議論を深め、必要に応じて見直すことが重要とのことであるが、令和5年度の見直し状況はどうか

(2) 増加する不登校児童生徒のため、対応スタッフの増員やフリースクール整備のための予算を増額すべきと考えるがどうか

(3) 自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されたことから、自転車通学をしている高校生のヘルメット着用率を上げるための取組をすべきと考えるがどうか、また、県立高校についてもヘルメット着用率向上のための取組をするよう、県に働きかけるべきではないか

5 不適正な事務処理について

(1) 本市におけるシステムの新規導入時やソフトウェアアップデート時にはどのような動作確認を行っているのか

(2) システム障害等による不適正な事務処理を防止するため、デジタル化推進本部及び情報統計課の職員の知見を生かし、動作確認を適切に実施すべきと考えるがどうか

6 送迎用バスの置き去り防止策について

- (1) 万が一車内に取り残された場合に、子どもが押せるような非常ボタンを送迎用バスに設置すべきと考えるがどうか

7 公用車運転時におけるアルコールチェックについて

- (1) 本市職員が実施する公用車の運転前後のアルコールチェックについて、第三者が結果を確認したり、測定結果の履歴が残るアルコール検知器を使用したりする等、チェック方法の見直しが必要と考えるがどうか

8 クルーズ船寄港時の見学について

- (1) クルーズ船寄港時には、一般見学エリアに近い場所を駐車場として設定したり、一般見学エリアを増やしたりする等、見学者の負担を減らし、より楽しめる環境を整備するよう、県に働きかけるべきではないか